緊急提言

早めに免疫グレイトを

パンデミックで力（ちから）発揮

考え方を変えていく努力

（1面のつづき）

細かい種類はいろいろあるでしょうが、その人にとっての大事にされない、粗末にされるということに関連した何かしらの意識が出てきます。

自分は他者から大事にされない、粗末にされるという意識は、多かれ少なかれ、人類がみな持っている意識ですから、サポート免疫グレートをとると、多くの人で、そういう意識が炙り出され、その意識の浄化に伴い、身体症状（発熱、咳、皮膚発疹、頭痛、節々の痛みなど）が出てくることになります。

このような意識が炙り出されたとしてもそれを自覚することは難しいですが、体に症状が出たときは、低い意識が出てきた結果と思って下さい。

この浮上した意識とインチャは、以下のお唱えをすることで癒すことができます。

好転反応による心身の症状が辛いとき、なかなか改善しないときなどお唱えをしてみてください。

一切成就の祓い30巻　心経5巻　禊祓10巻　十種祓20巻　神言　不動明王のマントラ4セット　愛染明王のマントラ4セット　金剛夜叉明王のマントラ4セット　ぐんだり明王のマントラ4セット

※1セットは（3回）で、4セットは、3×4＝12回となります

※祝詞とマントラは、とようけTVで見ることができます（有料、税込1100円）。

https://tv.toyouke.com/video/224

どうして大事にされること、愛されることを求めるのか？

それは、胎児、赤ん坊、幼児、子どもは、大事にされないと死んでしまうからです。

死にたくない、死ぬのが怖いから、愛されることを求めてしまうのです。「愛されたい」というインチャが、人間のインチャの根本的なものとしてありますが、その奥に「死にたくない」という人間の根本的なインチャ、欲があります。

サポート免疫グレイトは、愛されたいインチャだけでなく、死にたくないインチャに関連した意識も炙り出すことが新たにわかりました。

根本の根本、生存本能が害されたときに炙り出される死にたくないという、普段は眠っている意識、そこを免疫グレイトが炙り出すことがあるようです。死にたくないというインチャが炙り出されるとき、身体的には痛みとして出ることが多いです。

こういうことを言うとサポート免疫グレイトをとるのが嫌だなと思うかもしれませんが、痛みが生じることで死にたくないインチャが癒されているということなので、痛みをありがたく受けとっていきましょう。

たとえば、喉の痛み、頭痛、節々の痛み、リンパ節の痛みのような感じで痛みが出ます。

殺されるときや死ぬときは、痛みを伴うものですが、死にたくないという恐れ、怒り、悔しさ、悲しみ、つまり死にたくないインチャと痛みは、一緒になっているのかもしれません。

だから、痛みを感じることで死にたくないという思いも昇華され、癒されるのだと思います。

いずれにせよ、サポート免疫グレイトをとることで死にたくないという意識も薄らぎ、往生際がよくなって、往生しやすくなるようです。ただし、この死にたくないインチャも愛されたいインチャも本能化しているインチャで、ホメオパシー用語で言うと、マヤズム化していますから、全く無くなるということはありません。そういう意識を薄めることができるということです。でも死にたくないインチャを小さくできるとしたら、これはものすごいことです。ホメオパシーのマヤズム治療に相当しますね。

サポート免疫グレイトは、人間の意識の根本の部分である、「死にたくないインチャ」と「愛されたいインチャ」に関わる低い意識を炙り出し、浄化する力があります。

それは、これからばらまかれる人工ウイルスは、「死にたくないインチャ」と「愛されたいインチャ」をターゲットにしたウイルスで、世界的には10％の人が、乗り越えることができず、亡くなるかもしれないということです。たとえ生き残ったとしても、薬による症状の抑圧によって生き残った場合、それは、死にたくないインチャと愛されたいインチャを一層強化した形で適応することであり、生命力が著しく低下した状態になるということです。そして、すぐに情緒不安定になり、被害者意識が強くなり、生きるのが一層苦しくなるでしょう。たとえ人工ウイルスだとしても、それがこの世に出現したということは、それが自然の摂理だということなのです。

ビルゲイツを使って世に出現させただけで、それも自然の一部だということ。あくまでも私たちの意識の反映として、人工的だろうが自然的だろうが、出現するということです。そして、人工ウイルスだとしても、それは私たちの低い意識を浄化するために存在するのだということです。

そして、たとえ、感染して発症して死んだとしても、低い意識が浄化されるので、魂的には、悪いことではない、むしろ、いいことなのです。

また、自然淘汰の側面もあり、自然なことであり、正しいことなのです。むしろ、ワクチンを打って免疫を下げられ、きちんと感染することもできない状態となり、半病人で生きる方が魂的には、問題があります。魂が穢れたまま、来世に持ち越してしまうからです。

一方で、ワクチンを打って苦しんでいる人もいます。たいへん辛いことではありますが、不自然な生き方・考え方をしたカルマの清算という側面もあるのです。この世的価値観から考えると、このような考えは受け入れ難いものでしょうけれど……。人工ウイルス、それは未曾有のパンデミックを引き起こすかもしれませんが、もしそれに感染し、自然免疫で乗り越えることができたならば、人間の根本的なインチャである愛されたいインチャと死にたくないインチャの解放に繋がる可能性もあるということです。

もしそうなったら意識が飛躍的に目覚めるでしょう。

恐ろしい病原体は、人類を真に解放する可能性もあるということです。感染症とは自然が為す同種療法である、これは私の持論です。そして、ホメオパシーでは、自然が為す同種療法を飛び越えて、罹る素因を解放することが可能な療法です。

ホメオパシーは自然免疫を増幅させて治癒する療法ですから、サポート免疫グレイトは、これから生じるパンデミックでも大きな力を発揮することでしょう。

サポート免疫グレートが、人工ウイルスによる感染症を予防できるということは、かかる前に、意識を目覚めさせる力も強いということです。

サポート免疫グレートをとると好転反応が出ると言いましたが、意識が目覚める準備がまだできていない人は、浄化のプロセスが開始しないかもしれません。そういう人は、人工ウイルスに感染して、強制的に苦しみを味わうことになるかもしれません。ですから、日頃から生かされていることへの感謝の気持ちをもち、生き方、考え方を変えていく努力をする必要があると思います。

そうして、再度サポート免疫グレートをとり、浄化のプロセスが始まるようにしてください。

残り時間はあまりありません。早く信仰心を目覚めさせ、生かされていることに気づき、感謝を捧げてください。死に神が感謝の未払いのカルマを刈り取りに来る前に。

■サポート免疫グレイトの予防効果

さてこのサポート免疫グレイトがどの程度人工ウイルスの感染を予防できるのかというと、おおよそ83％です。

早ければ11月から始まりますので、できるだけ早めにサポート免疫グレイトをとられることをお勧めします。というのも人によっては、好転反応が強く出ると思われることと、場合によっては好転反応が1～2ヶ月に及ぶことも有り得るからです。しかし、今のうち、それら低い意識を浄化し、体の老廃物を浄化しておくことで、未曾有のパンデミックを乗り越えることができるのですから、善いことだと考えるようにしてください。

サポート免疫グレイトのチンクチャー（液体）を使われる場合は、500㎖のペットボトルの水に20滴垂らし、一日かけてお飲み下さい。飲む前に軽く振ってから飲むとより効果的です。

■コロナワクチン対策

コロナワクチンの副作用で苦しんでいる人、コロナワクチン接種以来、調子が悪い人、コロナワクチンの毒出しをしたい人などは、サポートコロナ・ブイ・ディーエヌエーが合います。

コロナワクチンによって作り出されるスパイクタンパク質は、DNA修復を90％も抑制します。

結果、DNAのエラーが蓄積し、癌を加速させます。コロナワクチンを接種を始めてから癌患者の数が急増しています。

サポートコロナ・ブイ・ディーエヌエーは、DNAのエラーを修復する力があります。シェディングの害にも有効です。

ホメオパシーとは同種療法

ホメオパシーは、今から200年前にドイツの医師ハーネマンがその生涯をかけて確立させた自己治癒力を使う同種療法です。同種療法の起源は古代ギリシャのヒポクラテスまでさかのぼることができ、「症状を起こすものは、その症状を取り去るものになる」という「同種の法則」が根本原則になっています。ギリシャ語で「同じ」という意味の「ホメオエ（homeoeo）」と「病気」を意味する「パシー（pathy）」を合わせた言葉で、近代西洋医学のように、症状を抑え込む療法とは正反対の、「症状には同じような症状を出すものを天文学的に希釈振盪して与える」という「同種の法則」に基づいています。

症状は体からにしろ、心からにしろ、必要があって表出しているのであり、同種療法によって症状を出し切ることが治癒につながるという考え方です。ハーネマンはこの「同種の法則」にプラスして、症状を起こすものを非常に薄め活性化（希釈振盪）して使うことにより、体に悪影響を与えることなく、症状だけを取っていくものとなるという「超微量の法則」を打ち建て、物質の悪影響もなく、情報パターンだけを与えることで安全で体にやさしく常習性を持たないホメオパシー療法を完成させました。

自己治癒力が触発

たとえば、風邪を引くと体が発熱します。ホメオパシーでは、この熱に対し、熱を出す作用のあるものの情報パターンだけを体内に入れて熱には熱と同種で共鳴させ、あたかも熱が上がっているようにさせることで、身体はこんなに熱が出ては大変だと気づき、何とか治そうとして自己治癒力が触発され、自らの力で治って行きます。このように同種療法のホメオパシーは、この自己治癒力の喚起を狙います。

我々、近代西洋医学の考え方に慣れている現代人にとって、同種の法則がどうして治癒に至るのか理解しにくいですが、たとえば、一昔前には風邪を引いて鼻水が出ると首に長ネギを巻いたものです。長ネギは料理する際に包丁で刻むと鼻水が出ます。鼻水には鼻水の出るものを与えるのです。昔の人は意味もなく長ネギを巻いたわけではありません。それが治癒に至ると知っていたから巻いたのです。ホメオパシーも、症状をもたらすものを投与し、同種の法則によって治癒に至った膨大なケースの集積の上に成り立っています。同種療法の考え方の歴史は、意外にも古く、古代ギリシャのヒポクラテスは、「同じようなものが同じようなものを治す」との言葉を残していますが、その後は熱には冷やすことなどの逆療法が一般に流布し、同種療法は民間伝承や民間療法などの形で細々と受け継がれていきました。そして約200年前、ドイツの医師サミュエル・ハーネマンがマラリヤの症状にキナという植物の樹皮（発熱、悪寒、腹痛、下痢などマラリヤに似た症状を示す）がマラリヤ患者を治すことを発見し、同種療法に傾倒。様々な物質をハーネマン自身、そして弟子達が摂ってみて、どのような症状が出てくるかを人体実験し、出てきた症状を書き取ったものが、レメディーの大辞典『マテリア・メディカ』と呼ばれ、多くの病気の症状に対応できる症状全集を作り上げ、ホメオパシー医学を確立しました。以後、世界各地に広まり、英国国会で「最も安全な療法」と認められたほか、インドでは第一医学として用いられるなど、インドや、ドイツ、南アフリカ、メキシコなどでのように、5年制の大学（教育機関）のある国もあり、200年の歴史と多くの症例・ケースをもとに発展してきており、世界的に評価が確立されているものです。ホメオパシーを利用している様々な分野の著名人も多く、21世紀の代替医療の切り札としても注目されています。私達の心や細胞が抱える不自然なパターンを解放し、真の自分を取り戻し本来の自分を生きることができるようになる自然療法、それがホメオパシーです。